



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 諦めない心

旭町小学校副校長 吉井 広明

「どうして大人は子供に夢を聞きたがるのですか。」以前勤めていた学校で6年生の子供に言われた言葉です。その時は「確かにそうだな。」と妙に納得してしまったのですが、その言葉は私の心にずうっと引っかかっていました。

私の友人に2020年に開催される東京パラリンピックを目指している人がいます。元々教員とは違う仕事をしていたのですが、教員になりたいと一念発起して教員免許を取り、小学校の教員になったところ、交通事故に遭って下半身が動かなくなってしまいました。車椅子での生活を余儀なくされ、仕方なく退職しました。せっかく手に入れた教員という夢を事故で失い、しばらくは失意の中で過ごしましたが、やがて新しい目標を見つけました。それはパラリンピックに出るということです。初めは柔道で鍛えた腕力を使って水泳に挑みました。水泳に関しては全くの素人でしたが、努力を重ねて全国大会に出られるまでの実力を身に付けました。ところが、今度は肩を痛めてしまい引退。しかし、彼のパラリンピックに出たいという情熱の炎は消えませんでした。40歳を越えたので筋力で勝負するのは難しい、それならばと射撃でパラリンピック出場を目指すことにしたのです。今年、44歳となった彼は「東京アスリート認定選手」に選出され、東京パラリンピック出場を目指して日夜練習に励んでいます。彼の前向きな姿を見ているとこちらまで元気をもらえ、自分もがんばらなくてはという気持ちにさせられます。子供に将来の夢を聞くのは、目標をもって生活してほしいという思いのほかに子供たちの話を聞いて元気をもらいたいという気持ちもあるのではないかと考えたりもしています。

リオデジャネイロオリンピックでは選手たちの活躍に胸を熱くしました。努力を続けること、諦めないことって大切なんだと改めて思いました。どんなにがんばっても、諦めなくてもオリンピックに出られるとは限りません。しかし、確実に言えるのは諦めなかったから選手たちはあの舞台に立っているのだということです。9月7日からはパラリンピックが始まります。選手たちの活躍が楽しみです。

オリンピック・パラリンピック教育の一環として「世界ともだちプロジェクト」があります。東京都教育委員会から示された47グループのうち練馬区教育委員会から割り当てられた1グループの国について学ぶことを通して世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解することをねらいとしています。旭町小学校は以下の5カ国が指定されています。

スウェーデン・ボリビア・ブルンジ・ガンビア・ベトナム

今後、これらの国について調べる学習も各学年で行う予定です。